定例自然観察会実施報告書

２０２２年5月１０日
４班　竹上秀已

実施日　　２０２２年5月８日（日）
テーマ　　明石の海浜植物探訪
コース　　山電林崎松江海岸駅　～　明石海岸　～　山電中八木駅
集　合　　山電林崎松江海岸駅　南の海岸　　１０時
解　散　　山電中八木駅　　１５時
参加者　　ビジター　３８名　　会員　３７名　（４班１９名）
　　（ビジターは５つの班に分かれて観察を行う）

浜を歩くにほどよい好天に恵まれる。晴天だが弱い風があり、暑さによる疲労感を感じずに歩ける。連休の最終日で、思っていたより浜に人は少ない。班分けを行い、観察会を始める。

集合場所から周囲を見渡すと、東に明石海峡大橋、南に淡路島・四国のシルエット、西に家島諸島や小豆島などが見えている。北側はかつて屏風ヶ浦と呼ばれた海食崖で北西に延びている。この海岸（今日歩くコース）は、海水による侵食を受け続けていたが、護岸・養浜工事が行われ、現在は「浜の散歩道」と砂浜などが続く海岸となっている。

資料にあげたオカヒジキ、コウボウシバ、コウボウムギ、ツルナ、ハマウド、ハマエンドウ、ハマオモト、ハマゴウ、ハマダイコン、ハマビシ、ハマヒルガオ、ハマボウフウなどの海浜植物を中心に、砂浜に進出して来ている植物の主なものを含めて観察を行う。

「砂浜にはどのような植物があり、どのように生活しているか。どのような特徴があるか。」が今日の観察会のポイントとなる。

５班に分かれて観察が始まる

コウボウシバ、コウボウムギ、ハヒルガオ、ハマボウフウなどは、少し歩けばどこでも見ることができるほど個体数が多く、観察できるところも多い。ハマダイコンは浜へ降りる階段付近などに多く見られる。他の海浜植物は、生育場所が限定的になり、生育場所を巡りながら観察することになる。班により観察場所が異なる場合もある。

《　観察・解説等の概要　》

ハマボウフウ　花は咲き始めで、咲いているものはほとんどがまだ雄性期で、雄しべを突き出している。雄性先熟が確認できる。カリフラワーように見えるとの声が出る。葉は厚く、光沢がある。根はゴボウのように長い（20~30cm 掘ってみた）。防潮堤近くのものが大きい。刺身のつまにされる。

ハマヒルガオ　今は開花期でうすピンク色の可愛い花をつけている。葉は厚く、光沢がある。砂の中で地下茎を水平方向に伸ばしている。日本中に分布し、。海浜植物の代表種。

ハマヒルガオやコウボウシバの群生

ハマヒルガオの花

コウボウムギ　雌雄異株で、雄株の花序は葯が残り茶色に、雌株の花序は太く緑色になっている。砂の中で地下茎を水平方向に伸ばしている。地下茎を伸ばして繁殖するため、雄株と雌株が別々に群落をつくっている場合が多い。

コウボウシバ　雌雄同株で上部に雄花が下部に雌花がついている。雌花は果実になってきている。砂の中で地下茎を水平方向に伸ばしている。葉だけしかない時期はコウボウムギとの区別が難しい。葉の色合いや幅、脈の数などに違いがある。

ハマダイコン　まだ多くの花をつけているが果実になっているもの多い。果実をかじってみると辛味がありダイコンの味がする。さやは厚く、縦には割れず、節で横に折れる。花の色に違いがある。近寄ってみると意外に花は可憐。防潮堤の下、特に浜へ降りる階段付近に多い。背が高くなるハマダイコンは風が当たりにくいところを選んでいるのかとも思える。

ハマウド　人の背丈を越えるほど大きくなる。浜の散歩道（防潮堤）より北側に多い。突堤の付け根付近にも見られるようになってきている。茎は太く、葉は厚く光沢がある。

ハマオモト　別名ハマユウ。今は花を見ることはできないが、美しく芳香のある花をつける。葉は厚く、光沢がある。

ツルナ　石を組んだすき間などに大きな個体が見られる。小さな黄色の花をつけている。葉は厚く（肉質）表面に粒状突起がある。葉をかじると塩味がする。

根元付近で昨年できた果実を見つける。ヒシに似ているような果実で、見るからに水に浮きそうに思える。おひたし、炒め物などにして食べることができる。アイスプラントと同じハマミズナ科。

ハマエンドウ　花は紫色で美しいが、花期の終わりで数は少ない。サヤエンドウのような果実を着けている。エンドウの仲間ではなく、スイートピーの仲間で有毒成分を含むので食べてはいけない。

オカヒジキ　まだ小さい個体が多いが藤江港東の砂浜に大きな個体が帯状に生えている。葉は丸く肉質で先が尖る。海藻のヒジキに似ていることからオカヒジキの名がついた。小さな花を葉腋に見つけ、ルーペで観察する。栽培もされており、若い茎葉は食用にされる。

ハマゴウ　今日見る海浜植物で唯一の木本（匍匐性の落葉低木）。葉は出ているが、まだ小さい。かなり大きな群落があり、枝が立ち上がっている所では入りにくいほどの藪となっている。葉や昨年の果実のにおいをかぐ。上品ないい香りがある。花はまだついていない。

ハマビシ　観察できなかった班もある。まだ小さな個体しかなく、花もつけていない。以前かなりの個体数があったが、近年は少なくなってきている。

砂浜に進出している植物は、帰化植物が多い。コマツヨイグサ、メリケンムグラ、ビロードモウズイカ、ヘラオオバコ、ヒゲナガスズメノチャヒキ、ネズミムギ類、アメリカネナシカズラなど観察する。

最後にアメリカネナシカズラがハマヒルガオに巻き付いているようすを観察する。ここで見るアメリカネナシカズラはハマヒルガオだけにとりついている。アメリカネナシカズラとハマヒルガオが同じヒルガオ科であることが関係しているのか。とりつかれたハマヒルガオの葉は一部が黄色になり養分を取られ弱っているように見える。よく見るとアメリカネナシカズラのつるに丸い実のようなものがある。これは虫こぶで、中にはマダラケシツブゾウムシの黄色で小さい幼虫がいる。自然の面白さを感じる。

ヒルガオとアメリカネナシカズラ

植物以外では、「あかし」の地名のもとになったと言われる「赤石のいわれ」が書かれた場所やアカシゾウ発掘地を訪ねる。

ほぼ予定通り 15 時ころ、最後の班が中八木駅に到着し、観察会の終了となる。

六甲自然案内人の会の観察会は、山や山の近くで行ってきたが、趣の異なる海岸で海浜植物などの観察でき、面白かったという感想があった。